

読書感想文の書き方

同じ本を読んでも、読み手によって感想はさまざま。読書感想文は読み手のものの見方・考え方を映し出す。読書感想文の本を選ぶときは、本の題名、あら筋、目次、冒頭、友達からの薦めなどを参考に、「この本を読みたい。」と感じたものを選ぶ。

① 本を読み、次のような点についてメモする

- ・読み終わって、どんな気持ちになったか、それはなぜか。
- ・疑問に思ったこと。
- ・心に残った言葉や場面とその理由。
- ・作品の中で起こるできごとと自分が体験したこととで似ていたこと。
- ・印象的な登場人物とその特徴。
- ・登場人物が自分と似ているところ、異なるところ。
- ・本を読んで自分の考えがどのように変わったか。

② 内容を検討する

メモを見直し、どの部分を感想文に書くか検討する。

カムパネルラの行動と似ている体験を書くかな。



③ 構成を考える

自分の考えや感想がよく伝わるように、感想文の構成を考える。

④ 感想文を書く

下の例を参考にして書き方を工夫する。

⑤ 推敲する

- ・誤字や脱字、言葉の誤用はないか。
- ・主語と述語が対応しているか。
- ・一文が長くてわかりにくいのか。
- ・くだけた表現や略語、語を用いていないか。

みんなの幸いを探しに行く勇氣

一年三組 田中広実

「僕もうあんな大きな暗の中だつてこわくない。きつとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行こう。」

「銀河鉄道の夜」の中でいちばん心に残った言葉だ。この言葉に、ジョバンニの決心を感じた。そして、ジョバンニがこう思えたのは、カムパネルラがそばにいたからだと思った。

ジョバンニは親友のカムパネルラとともに銀河鉄道に乗って旅をする。列車にはさまざまな人が乗ってきて、そして降りてゆく。

「銀河鉄道の夜」はジョバンニが出会いと別れを繰り返して、「ほんとうのさいわい」について考える物語だ。けれど、「ほんとうのさいわい」とはなんだろう。

(中略)

「ほんとうのさいわい」について考える間に、私の頭に浮かんだ

のは、遠足で行った登山のできごとだった。急な下り坂で滑りそうになったとき、そばにいた友達がつきに私の手をつかんでくれた。しかし、二人ともはでに尻もちをついた。

「ごめんね。」

と私が言うよりも先に、友達は、

「けがしなかった？」

と真つ先に私の心配をした。とつさに私の手をつかみ、心配してくれる友達が終わまでのカムパネルラに重なった。

実は、カムパネルラは既に「みんなのほんとうのさいわい」のために行動していた。結末でカムパネルラは、ザネリを助けるために川に飛び込んだことがわかる。カムパネルラも「みんなのほんとうのさいわい」を実行して銀河鉄道に乗り込んでいたのだ。ジョバンニは、「みんなのほんとうのさいわい」を探すために、カムパネルラと一緒にどこまでも行きたいと言っていたが、その思いはかなわない。このときのジョバンニのことを思うと心が苦しくなった。

けれど、ジョバンニは銀河鉄道の旅を通して、一人でもみんなの幸いを探しに行く勇氣をもつことができたのではないだろうか。そして、カムパネルラの行動を誇りに感じていると思う。私も本を読みながら、「みんなのほんとうのさいわい」について考える旅をした。そして、ジョバンニが決意したように、私もみんなの幸いを探す人になりたいと思った。

題名
読んでみたくなる題名を考える。

書きだし
興味を引くために、感想文の中心となる話題で始める。

例
・印象に残った言葉を引用する。
・読んでどんな気持ちになったか、それはなぜかを書く。

あら筋
誰がどうなった話か、どんなことが中心の話題かなどを簡単にまとめ、感想や疑問点を述べる。

自分との共通点
登場人物と似た体験や、同じような気持ちを感じたできごとについて考える。

まとめ
本を読み、どんな思いをもったか、自分の考えがどう変わったかを書く。